

第2章 関連計画・既往調査の整理

2. 関連計画・既往調査の整理

過年度の検討において、「北陸の強み」に関する知見について整理し、本調査での検討を進める上での基本的な条件として整理を行った。

2.1. 「平成 19 年度 北陸圏広域地方計画検討業務報告書」

北陸圏広域地方計画の原案検討にあたり、統計資料を始めとした既存資料を用いて SWOT 分析を行い、北陸圏の現状を把握した上で、戦略目標を設定している。当調査では、その際実施された SWOT 分析を参考に、北陸圏の強みについて再整理を行った。

北陸圏の強みは、良質な生活環境、豊かな自然環境、都市と農山漁村が近接したゆとりと利便性を備えた環境、独自性ある文化、多様な産業の集積、三大都市圏や環日本海諸国に対する地理的優位性の 6 点に集約される。

表 2-1 北陸の現状・特徴と北陸圏に関する強みの整理一覧

強み	内容
良質な生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 住環境に関する多くの指標が高い水準（持ち家比率、持ち家住宅延べ面積、下水道普及率、ブロードバンド及び CATV の普及率、一人当たりの都市公園面積、一人当たりの犯罪発生件数等） 全国で最も割合の高い女性の就業率、共働き世帯の割合
豊かな自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 3,000m級の山々から日本海に至る多様で豊かな自然環境や豊富で良質な水資源 豊富で多様な水産資源など食材の宝庫 宇奈月温泉や加賀温泉郷など、全国有数の温泉地が存在 自然や歴史、伝統文化などの魅力を生かしたグリーンツーリズムなど体験・滞在型の交流を創出するニューツーリズムの萌芽
都市と農山漁村が近接したゆとりと利便性を備えた環境	<ul style="list-style-type: none"> 自然とのふれあいに対するニーズの高まり 将来的に、都会と自然の多い地域との二地域居住を希望する割合が約 4 割 北陸 3 県でそれぞれ行われている、団塊の世代を中心とした都市と農山漁村の交流のための取組
独自性ある文化	<ul style="list-style-type: none"> 農林水産物を活かした食品加工や漆器などの什器なども含めた独自性のある食文化 魅力ある歴史・文化や風景（多数の国宝・重要文化財や史跡・名勝・天然記念物、伝統的な行事や祭り、散居村や棚田等） 宗教家や芸術家などを多数輩出
多様な産業の集積	<ul style="list-style-type: none"> 個性的な伝統産業からニッチトップ企業の集積する先端産業まで日本海側有数の産業が集積（富山県の製売薬、アルミ製品や銅製品、海洋深層水、石川県の漆器や金箔、情報通信や建機、福井県の繊維や眼鏡フレーム、金属メッキ等） 高い増加率にある工場立地件数や民間設備投資 エネルギー供給基地としての役割（全国の発電電力量の 12.1%を占める）
三大都市圏や環日本海諸国に対する地理的優位性	<ul style="list-style-type: none"> 三大都市圏から、それぞれ概ね 3 時間圏に位置 北陸新幹線や中部縦貫自動車道、東海北陸自動車道、能越自動車道などの整備の進展により、今後より一層期待される三大都市圏からのアクセス条件の向上 日本海を挟んで対面する環日本海諸国などへの良好なアクセス条件 環日本海諸国の経済成長も背景にした、韓国・中国や、東南アジア諸国への航路の充実

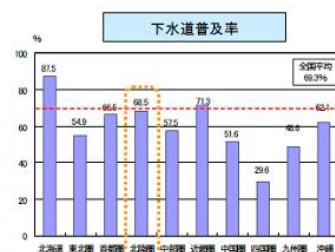
北陸圏の現状<強み①>

○良質な生活環境(1)

・持ち家比率、持ち家住宅延べ面積、下水道普及率、ブロードバンド及びCATVの普及率、一人当たりの都市公園面積、一人当たりの犯罪発生件数など、多くの住環境に関する指標で高い水準にある。



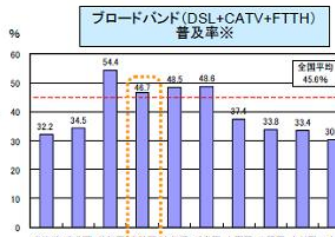
【出典】総務省 住宅・土地統計調査報告全国編(2003年)



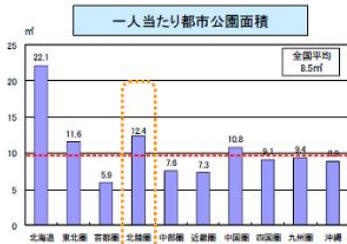
【出典】日本下水道協会「下水道統計要覧」



【出典】総務省 住宅・土地統計調査報告全国編(2003年)



【出典】総務省資料(2006年)



【出典】国土交通省都市・地域整備局 都市公園データベース(2006年)



【出典】警察白書(2005年)

※CATV(Cable Television):ケーブルテレビの通信網を用いたデータ通信サービス
DSL(Digital Subscriber Line):電話回線を用いたデータ通信サービス
FTTH(Fiber To The Home):光ファイバーを用いた家庭向けのデータ通信サービス

1

北陸圏の現状<強み①>

○良質な生活環境(2)

・女性の就業率、共働き世帯の割合は全国で最もその割合が高い。
・男女とも長寿で全国2番目となっている福井県など、男性・女性ともに平均寿命が長い。



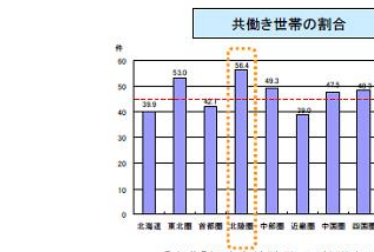
【出典】総務省統計局 就業構造基本調査(2002年)



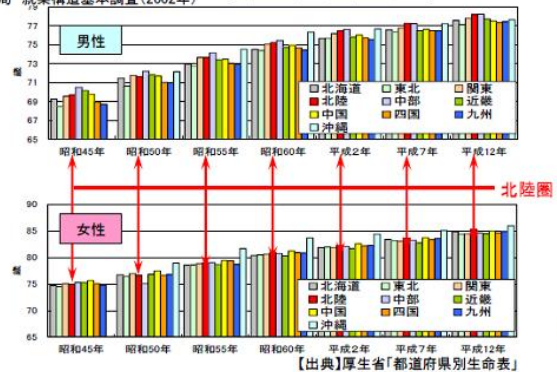
【出典】総務省統計局 就業構造基本調査(2002年)

順位	男		女		
	府県	年齢	府県	年齢	
1	長野	78.90	1	沖縄	86.01
2	福井	78.55	2	福井	85.39
3	奈良	78.38	3	長野	85.31
4	熊本	78.29	4	鳥取	85.30
5	神奈川	78.24	5	熊本	85.30
6	徳島	78.19	6	岡山	85.25
7	富山	78.18	7	富山	85.24
8	富山	78.03	8	山梨	85.21
9	新潟	77.98	9	新潟	85.19
10	石川	77.98	10	石川	85.18

【出典】厚生労働省 都道府県別生命表(2002年)



【出典】総務省統計局 国勢調査(2005年)



2

北陸圏の現状<強み②>

○多様で豊富な地域資源等(1)

- ・3,000m級の山々から日本海に至る多様で豊かな自然環境や豊富で良質な水資源を有している。
- ・豊富で多様な水産資源など食材の宝庫で、農林水産物を生かした食品加工なども盛んであり、漆器など什器なども含めて、食文化が根付いている。
- ・多数の国宝・重要文化財や史跡・名勝・天然記念物、伝統的な行事や祭り、散居村や棚田など、魅力ある歴史・文化や風景を有するとともに、宗教家や書道など芸術家などを多数輩出している。
- ・宇奈月温泉や加賀温泉郷など、全国有数の温泉地もあり、自然や歴史、伝統文化などの魅力を生かしたグリーンツーリズムなど体験・滞在型の交流を創出するニューツーリズムの萌芽が見られる。

人口あたりの水資源賦存量(平均年)

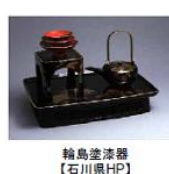


【出典】国土交通省「日本の水資源(平成17年版)」をもとに北陸地方整備局作成資料

豊かな水産資源と食品加工



漆器



伝統的な行事や祭り



越前漆器



自然環境・歴史・文化を生かした観光・景観



北陸圏出身の宗教家・芸術家

県	名前	分野
富山	石黒宗庵	陶芸家
石川	鈴木大雅	仏教学者
	長谷川等伯	桃山期の画家
福井	近松門左衛門	劇作家

全国有数の温泉地



北陸圏の現状<強み②>

○多様で豊富な地域資源等(2)

- ・富山県の製菓業、アルミ製品や銅製品、海洋深層水、石川県の漆器や金箔、情報通信や建機、福井県の繊維や眼鏡フレーム、金属メッキなど個性的な伝統産業からニッチトップ企業の集積する先端産業まで日本海側有数の産業が集積しており、工場立地件数の増加率や民間設備投資の増加率も高い。
- ・全国の発電電力量の12.1%を占める北陸圏はエネルギー供給基地としての役割を担っている。

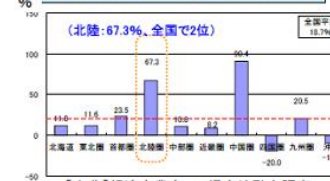


シェアの高い品目

県	品目
富山県	フェロクロム スライドファスナー 金属性押しチューブ 住宅用アルミニウム製サッシ
福井県	眼鏡枠 フェロアロイ類似品 綿・人絹織物精練・漂白・染色 ニット・レース染色・整理 繊維品たて織ニット生地
石川県	かさ高加工糸 建設機械・鉱山機械 家庭用エレベータ 稼働用準備機 金属はく(打はく) クレープ紙(綿入)広幅のもの 合成繊維長繊維織物精練・漂白・染色、レーヨン風合成繊維織物機械整理仕上

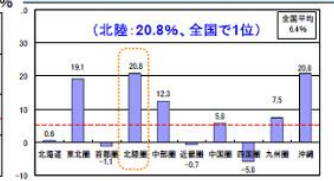
【出典】経済産業省 経済産業政策局調査統計部「我が国の工業2006」

工場立地件数の推移(2005年/2004年)



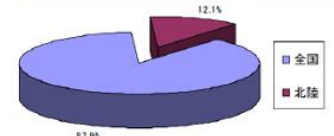
【出典】経済産業省 工場立地動向調査(2005年/2004年)

民間設備投資額の伸び率(2004年/2003年)



【出典】日本政策投資銀行 地域別設備投資計画調査(2004年)

全国に占める北陸圏の発電電力量



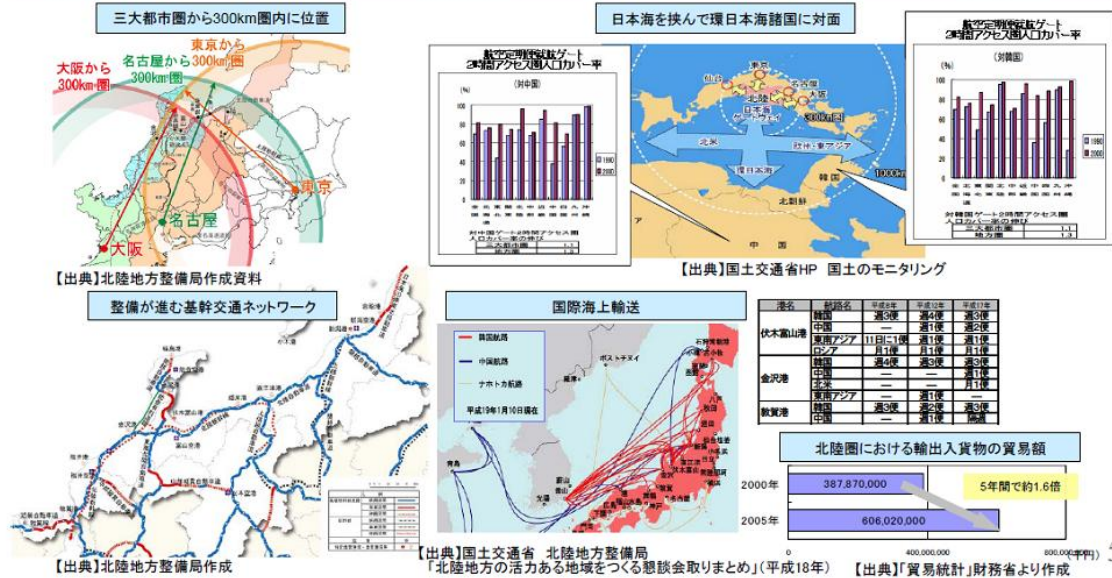
【出典】電気事業便覧2004年度版(電気事業連合会)及び中部経済産業局資料より

※特定電気事業者・特定規模電気事業者を除く

北陸圏の現状<強み③>

〇三大都市圏や環日本海諸国に対する地理的優位性

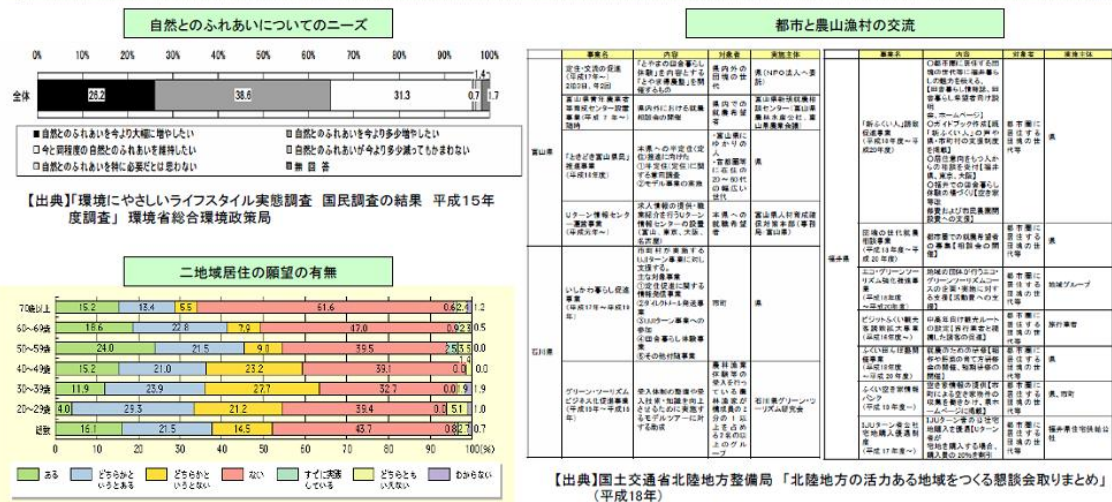
- ・北陸圏は三大都市圏から概ね3時間圏に位置しており、北陸新幹線や中部縦貫自動車道、東海北陸自動車道、能越自動車道などの整備が進むことで、三大都市圏からのアクセス条件が今後より一層向上する。
- ・日本海を挟んで対面する環日本海諸国などへの良好なアクセス条件の中、環日本海諸国の経済成長も背景に、韓国・中国や、東南アジア諸国への航路が充実し、貿易額が拡大している。



社会潮流<機会②>

〇いやしの重視

- ・自然とのふれあいを今より増やしたいとのニーズが高く、国民の約4割は、将来、都会と自然の多い地域との二地域居住を希望している。富山県、石川県、福井県において、団塊の世代を中心とした都市と農山漁村の交流のための取り組みが行われている。



2.2. 「平成19年度 国土施策創発調査 北陸圏における地域特性を活かした自立的、持続的な地域づくりに関する調査業務報告書」

この調査では、「二地域居住・定住の促進」及び「中山間地域の安全・安心な暮らしの推進」の2つの分科会を設置し、それぞれ富山市と奥能登地域をモデル地区に設定して以下の検討を行っている。

2.2.1. 二地域居住・定住の推進

北陸圏の暮らしやすさや、三大都市圏との近接性を強みとし、北陸圏出身の20～40歳代でUJIターン志向が強いこと背景に、若年世代を対象とした定住促進と、三大都市圏居住の団塊世代を対象とした長期滞在型二地域居住の推進に向けたモデル提案を行ったものである。

二地域居住・定住の推進

全国的な潮流

- ・ 団塊世代の退職等、大都市圏域を中心に二地域居住の需要が高まる。
- ・ 地方部では、二地域居住・定住への期待が高く、地域間競争も高まる。

北陸圏の特性

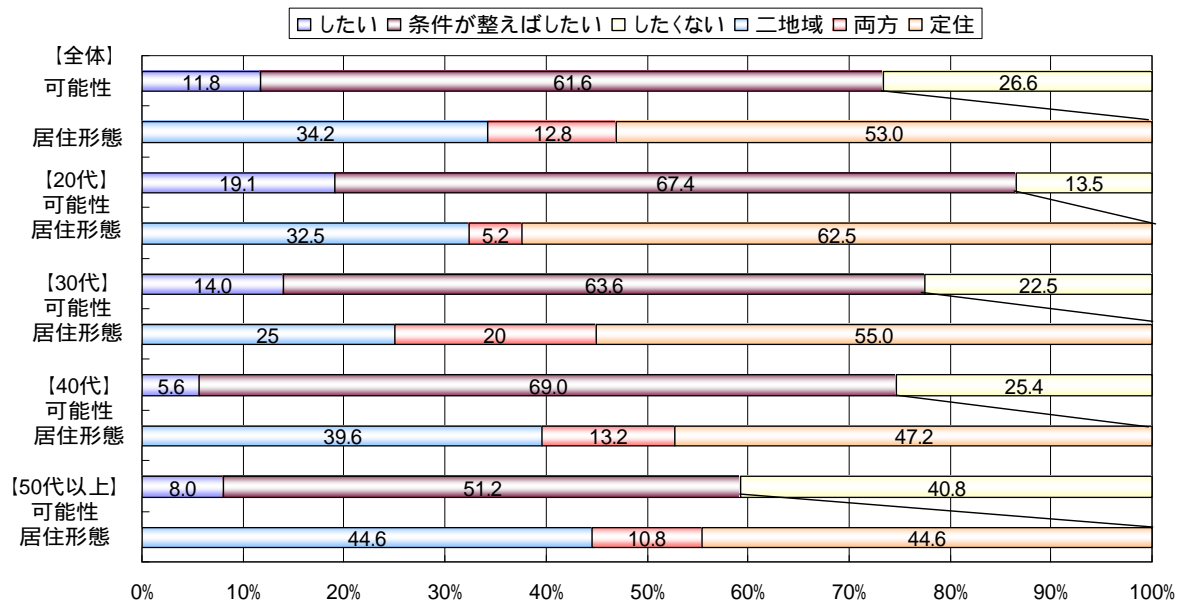
- ・ 週末滞在型の二地域居住については、大都市圏からの時間距離等から、他地域への北陸圏の比較優位は保ち難い。
- ・ 一方、コンパクトな中に、多様な資源（自然、歴史文化、都市機能）が存在することが、他圏域に対する比較優位である。
- ・ 北陸圏出身者の20～40代ではUJIターン意向が強い。

北陸圏における二地域居住・定住の推進方向

- ・ 北陸圏での二地域居住・定住の推進には、地域特性を生かした圏域全体の資源活用による長期滞在型の二地域居住や旺盛なUJIターン意向に応えた定住の推進が効果的。

北陸圏における二地域居住・定住の推進のための提案

- ・ 北陸圏全体を対象とした長期滞在モデルの構築
- ・ 魅力ある就業環境・居住環境の構築
(女性や子育て世代を含めたワークライフバランスのアピール)
- ・ 圏域内の多様な資源を活かし、広域的なライフスタイルを可能にする圏域内モビリティの確保。
- ・ 共同推進体制の構築（情報共有・NPO等のネットワーク）

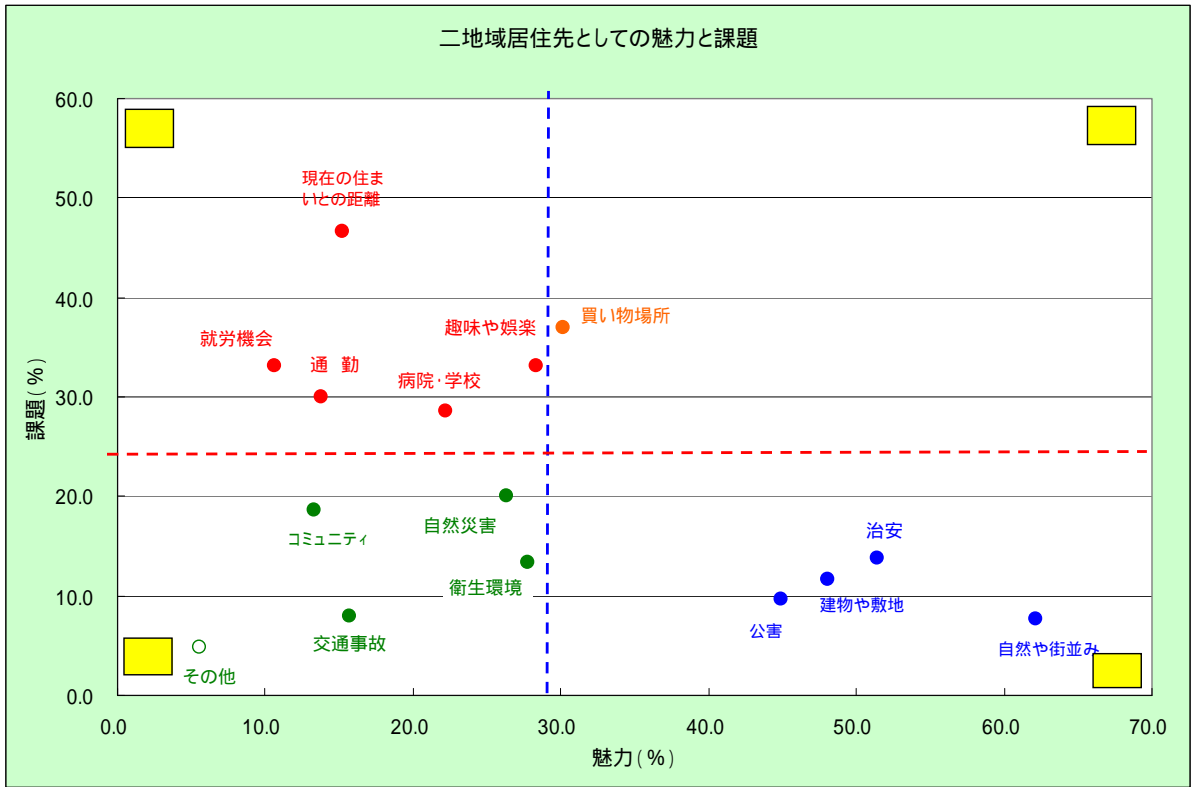


【出典】平成 19 年北陸圏広域地方計画策定のための住民意識調査

図 2-1 二地域居住・定住意向と居住形態（年代別）

表 2-2 二地域居住・定住の魅力と課題

	魅力	課題
共通	「自然や街なみ」「治安の良さ」「建物や敷地の広さ」「騒音・悪臭などの少なさ」を魅力としている。	課題として最も多くあげられているのが「現在の住まいとの距離」であり、さらに「買い物場所」「趣味や娯楽」「病院・学校」などの生活利便性に関する条件や「就労機会」「通勤」などの就業環境に関する事項を課題として捉えている。
二地域居住	自然や街なみを魅力とする者が特に多い。	「現在の住まいとの距離」を課題とする者が多い。 「就労機会」も課題としてあげられているが、定住と比べると割合は低い。
定住	二地域居住が「自然や街なみ」を最も強い魅力としたのに対し、定住では「治安の良さ」が魅力として最も多い。	課題としては「就労機会」が顕著であり、またコミュニティの問題を指摘する者もいる。 「買い物場所」は課題としてもあげられているが、半面魅力として認識している者も多い。



グラフ	アンケート結果	要素の性格
第 象限	魅力としての回答が多く、障害要因としての回答は少ない。	出身者に対する「強み」
第 象限	魅力が高いとの回答も多い反面、障害要因としての回答も多い。	人によって評価は異なるが、どちらにしても大きな関心要因
第 象限	障害要因としての回答が多く、魅力要因としての回答は少ない。	出身者に対する「弱み」
第 象限	障害要因としての回答は少ないが、魅力としても強く意識されていない。	出身者の判断要素として、あまり重要ではない。

【出典】平成 19 年北陸圏広域地方計画策定のための住民意識調査より再整理

図 2-2 二地域居住先としての魅力と課題

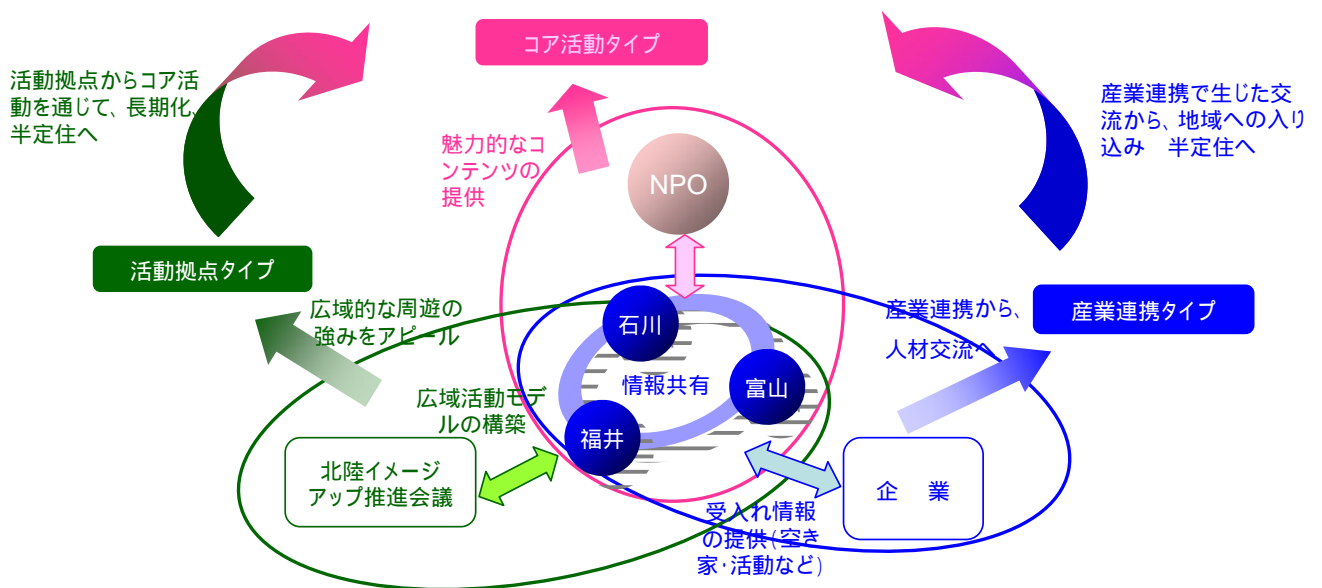
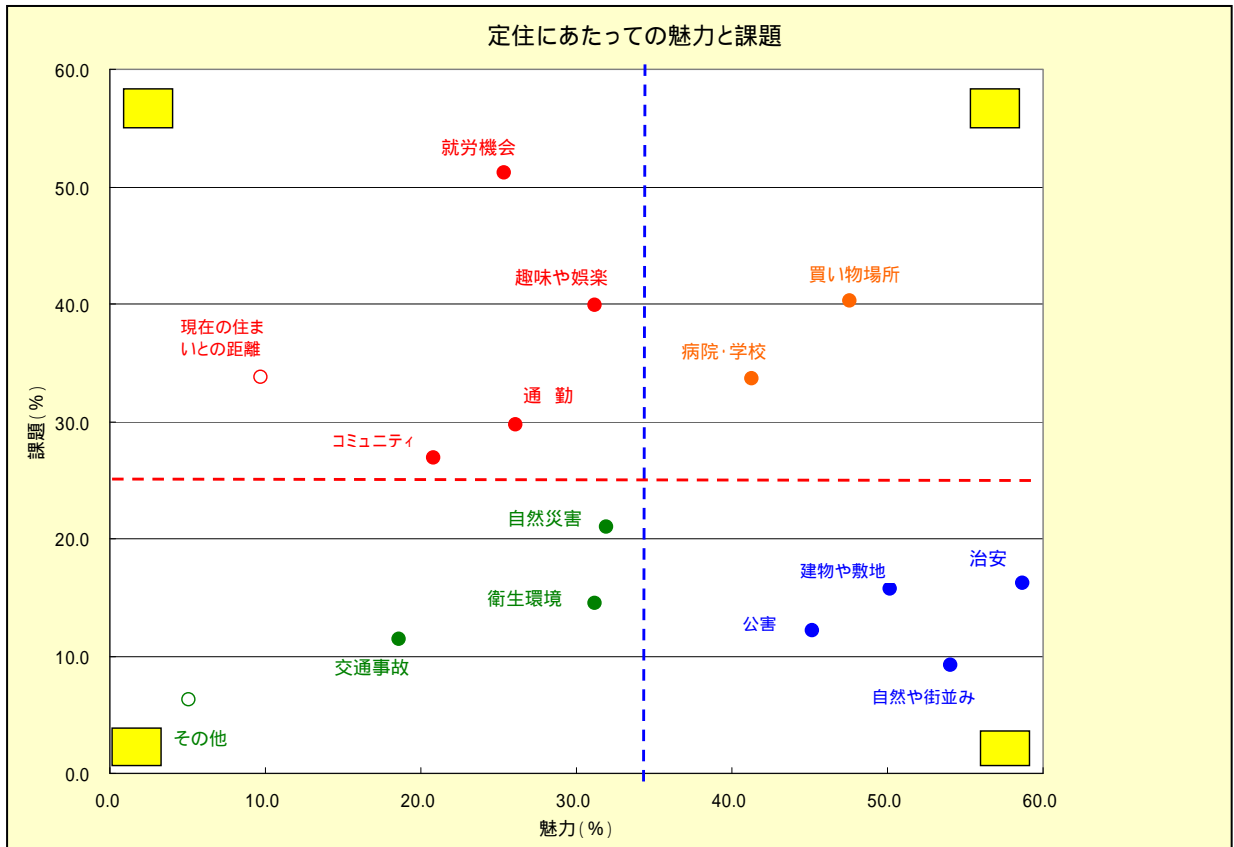


図 2-3 二地域居住のサブモデル



グラフ	アンケート結果	要素の性格
第 象限	魅力としての回答が多く、障害要因としての回答は少ない。	出身者に対する「強み」
第 象限	魅力が高いとの回答も多い反面、障害要因としての回答も多い。	人によって評価は異なるが、どちらにしても大きな関心要因
第 象限	障害要因としての回答が多く、魅力要因としての回答は少ない。	出身者に対する「弱み」
第 象限	障害要因としての回答は少ないが、魅力としても強く意識されていない。	出身者の判断要素として、あまり重要ではない。

【出典】平成 19 年北陸圏広域地方計画策定のための住民意識調査より再整理

図 2-4 定住先としての魅力と課題

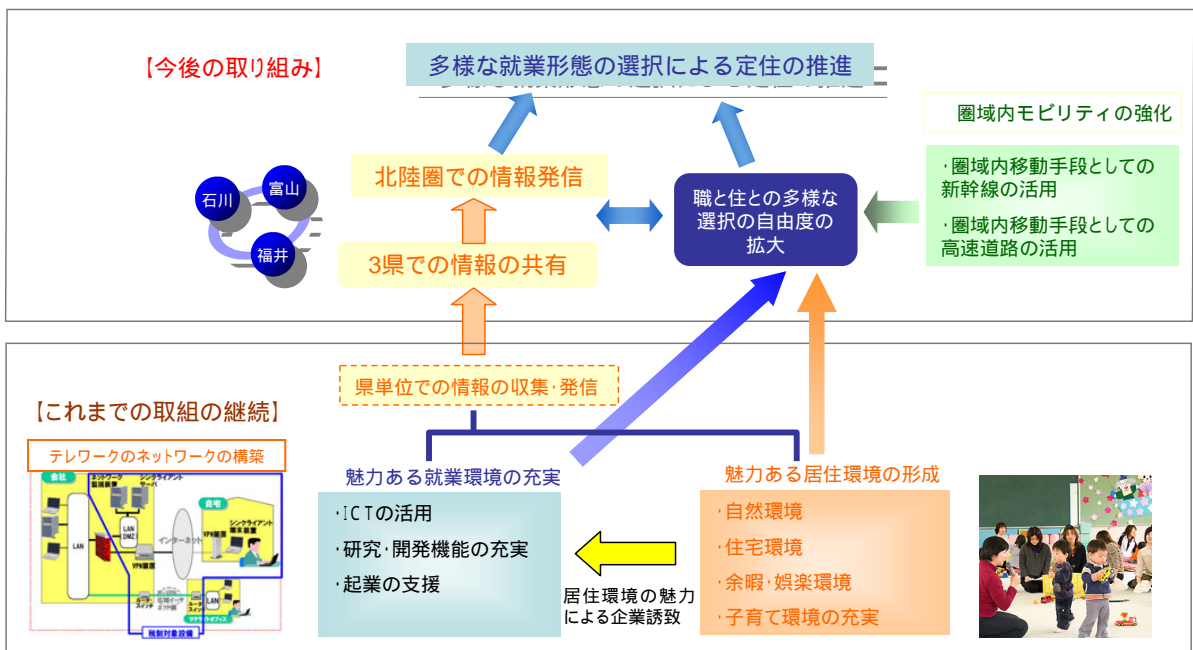


図 2-5 定住のサブモデル

2.2.2. 中山間地域の安全・安心な暮らしの推進

都市と農山漁村が近接する北陸圏にあっても、奥能登地域などの半島地域を始めとした、地形的・地理的条件不利地域にあっては、人口減少・高齢化の進展、農林水産業等の基幹産業の低迷、それらに伴う耕作放棄地の増加と国土保全機能の低下、医療等の生活機能や公共交通機能の低下等の問題が山積している。

この検討では、奥能登地域をモデルとし、強固な地域コミュニティを活かし、高度情報機能を活用による医療・福祉サービスの確保を検討し、高齢者が安心して暮らせる地域モデルの提案を行っている。

中山間地の安全・安心な暮らしの推進

全国的な潮流

- ・中山間地では、少子・高齢化、人口減少等が著しく、地域の存続が危ぶまれるところも発生

北陸圏の特性

- ・都市と近接した集落が比較的多いが、集落消滅等の危機感は全国と同様

奥能登地域（モデル地域）の課題

- ・営農継続と国土保全（耕作放棄や鳥獣害対策）
- ・緊急医療を含めた、医療面での安心確保
- ・高齢者に対する公共交通の確保
- ・集落コミュニティの強化

中山間地の持続可能な生活の確保方向

「安心」「生きがい」「利便性」の3要素の確保が必要だが、中でも持続可能な生活に向けての「安心」な生活の確保が最優先事項

中山間地の安全・安心な暮らしの確保のための提案

優れた地域コミュニティを基本としつつも、これらを補完するために、以下の3点を活用し、地域コミュニティと組み合わせたシステムが必要

- ・ICTの基盤整備と活用
- ・NPOなどの新たな主体の育成と活用
- ・都市と農山漁村をつなぐ交通ネットワークの確保

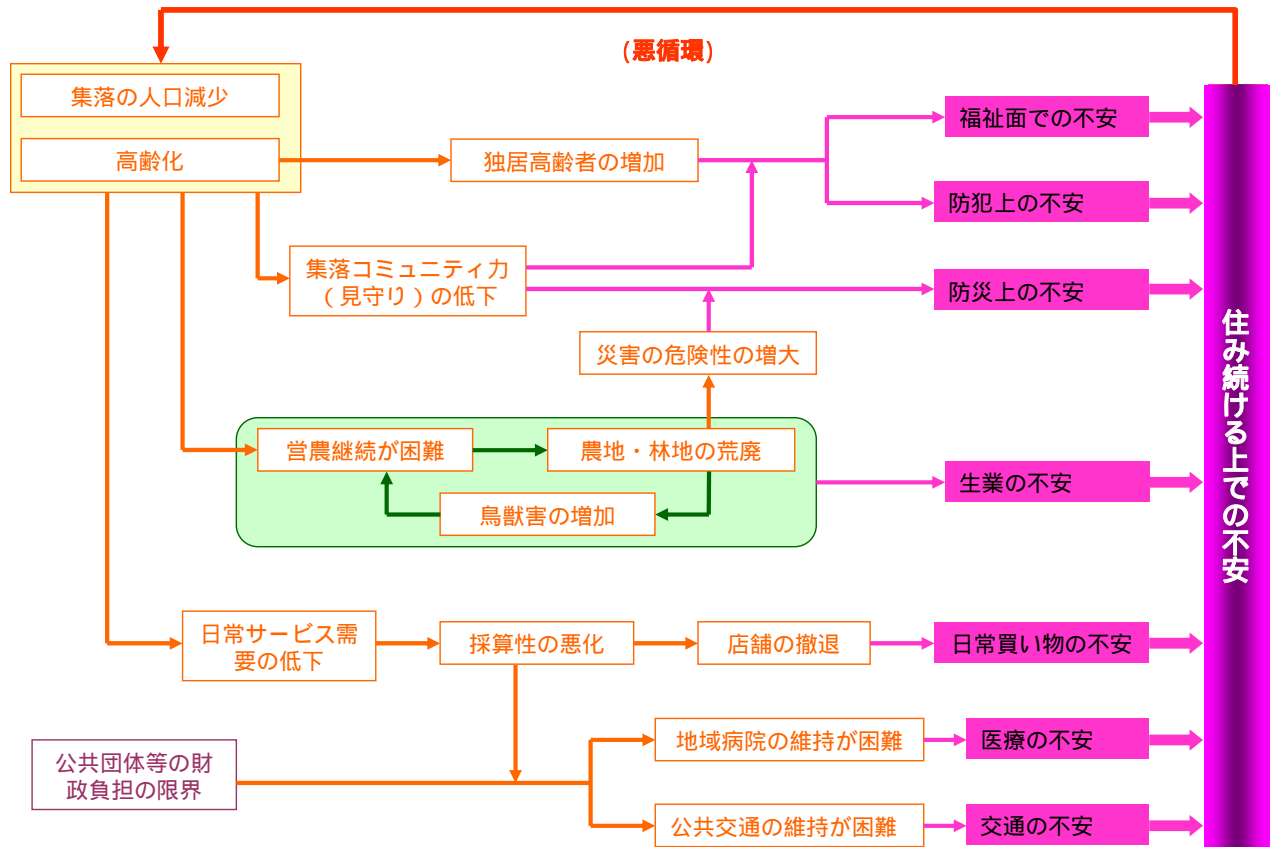


図 2-6 中山間地における課題の構造

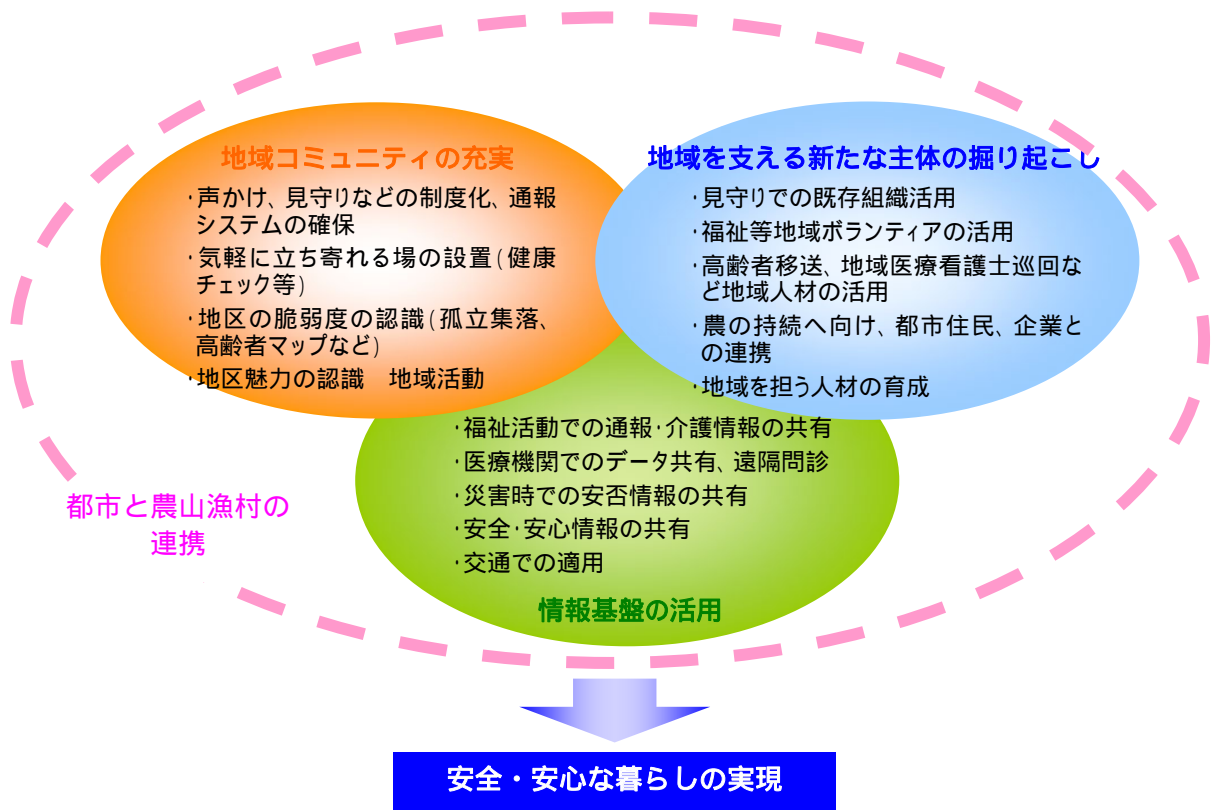


図 2-7 安全・安心な暮らしモデルの推進方向

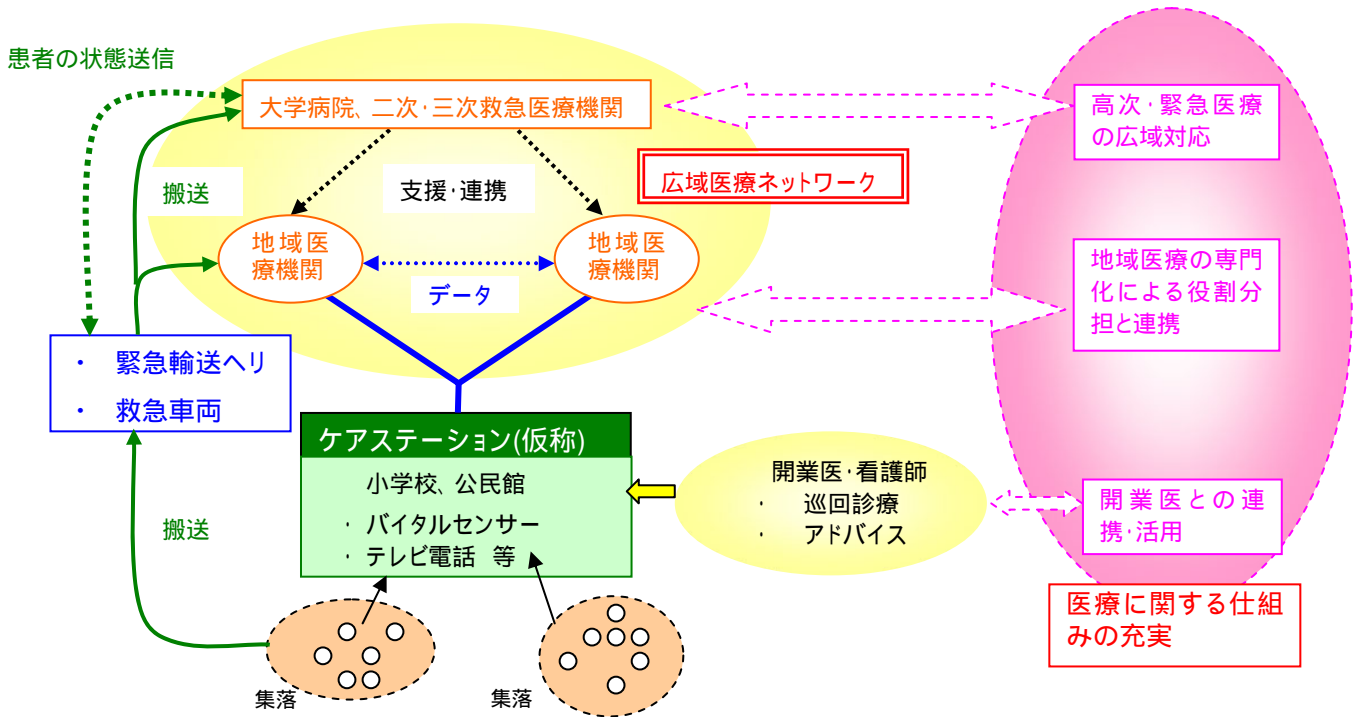


図 2-8 医療サービス安全モデルの構成

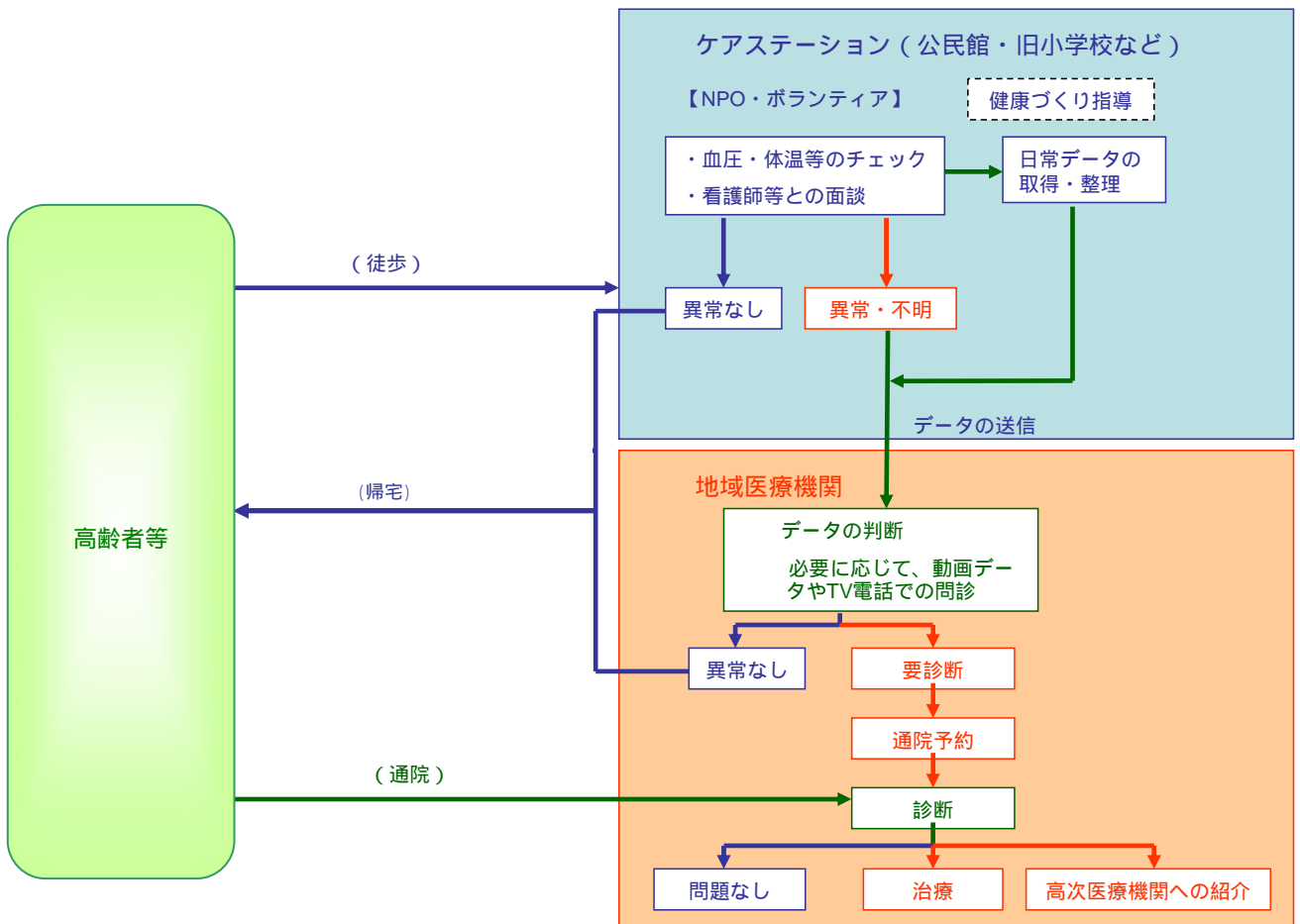


図 2-9 医療サービス安心モデルの運用方法

2.3. 北陸圏の強みに関する各種委員の発言

「平成 19 年度 国土施策創発調査 北陸圏における地域特性を活かした自立的、持続的な地域づくりに関する調査」における 2 つの分科会及び「平成 20 年度 広域ブロック自立施策等推進調査 北陸圏における真に暮らしやすい接続型都市圏の形成の推進調査」で実施した調査検討委員会において、北陸圏の「強み」が以下のとおり指摘されている。

表 2-3 委員意見による北陸の強みのまとめ

北陸の強みとしてのまとめ	委員意見の概要
接続都市として人をひきつける魅力がある	<ul style="list-style-type: none"> 都市と都市が近接した接続都市としての魅力で人を呼び込める 多様な機能を圏域が一体となって共有することのできる接続型都市圏を目指す 北陸新幹線開通による時間距離の短縮により、圏域全体で機能分担することが可能になり、300 万人規模の大都市が有するような都市機能の確保も考えられる
都市と農山漁村が 30 分圏と近接し、コンパクトで多彩な魅力を持つ生活圏を形成している	<ul style="list-style-type: none"> 都市と農山漁村が近接しており、相互のメリットを享受でき、30 分圏の中で、ドラスティックに色んな風景等が変化し、楽しめる 都市機能と自然豊かな地域が近接し、双方の利点を享受できる
優れた生活環境を有している	<ul style="list-style-type: none"> 高い教育環境を有する 全国でトップレベルの住みやすい住環境を有する ブロードバンドの接続環境が高い 「ゆったりズム北陸」HP へのアクセスや定住サポートセンターへの問い合わせ多く、移住先としてのニーズが高い（特に若者）
自然、歴史文化等の豊かな地域資源を有している	<ul style="list-style-type: none"> 伝統工芸を活かしたものづくり、農業体験を通じた「田舎暮らし」を求める交流の場としての農山漁村、祭りなどの文化等豊かな地域資源
強い地域コミュニティが維持されている	<ul style="list-style-type: none"> 成熟した地域コミュニティにより災害時の安否確認は迅速・的確に実施
全国でも先駆的な定住促進に向けた生活環境を充実する取組が見られる	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地と中心市街地の病院をネットワークで接続する遠隔医療のモデル事業、定住促進を目的としたテレワークのモデル事業等 ICT 活用の取組 掛かり付け医、副掛かり付け医の仕組み 地域主体でのデマンドバスやコミュニティバスの運行を子どもの送り迎えをタクシー事業者が行う「子育てタクシー」の取組
恵まれた就業環境を有している	<ul style="list-style-type: none"> 有効求人倍率が高く、働く場所が多くあることから若者の UI ターンを刺激 女性の労働意識が高く、就業率が高い 地域に本社を置く企業が存在し、企業の地域貢献度が高い
三大都市圏と近接した優位性を有している	<ul style="list-style-type: none"> 近畿、中部、関東の三大都市圏に等しく近接している優位性

表 2-4 平成 19 年度 国土施策創発調査 北陸圏における地域特性を活かした
 自立的、持続的な地域づくりに関する調査業務報告書
 分科会における北陸圏の強みに関する意見の抜粋

		二地域居住・定住促進分科会	中山間地の安全・安心な暮らし分科会	
第 1 回	職	・有効求人倍率は高い(工員)	公共交通	・デマンドバスやコミュニティバスの運行を地域主体で行政を先導して実施した事例
	教育	・高卒の進学率は 8 割		
	移住	・「ゆったりリズム北陸」HP での移住情報には 1,000 件のアクセス ・定住サポートセンターへの申し込みのうち半数は若者世代		
	地域構造	・都市機能と自然豊かな地域が近接し、双方の利点を享受できる		
	景観・食	・時間の流れ方が、季節や月の単位となっており、そのサイクルで景観や食を楽しむことが可能。月単位、年単位またはシーズンサイクルによるトランスヒビタントの構築が有効		
	農	・ニーズの高い「場」としての農山漁村が存在		
第 2 回	地域構造	・近畿、中部、関東の三大都市圏に等しく近接している優位性	中山間地の活用	・都会とは差別化できる魅力を持った中山間地域を有する
	地域資源	・地域の重要な資源となる伝統工芸を活かしたものづくり	情報通信	・ブロードバンドの整備率は富山県 100%、石川県・福井県 95%と全国に比べて高い
	企業	・地域に根付いた企業の存在	コミュニティネットワーク	・成熟した地域コミュニティにより災害時の安否確認は迅速・的確に実施
	情報通信	・ブロードバンドの接続環境は充実	伝統	・地域の伝統文化(祭りなど)の開催などを通じた交流
	住み良さ	・全国一の住みよい環境	医療	・掛かり付け医、副掛かり付け医の仕組み
	自然、温泉、食	・観光客が北陸に求めるもの(富山 自然、石川 温泉、福井 食、海水浴)		
	職	・働く場所が多くあることから若者の U/I ターンを刺激		
	農	・農業体験を通して交流を促進		
	企業	・他の圏域に比べ企業の本社立地が多く、豊かな地域		

表 2-5 平成 20 年度 広域ブロック自立施策等推進調査
 北陸圏における真に暮らしやすい接続型都市圏の形成の推進調査
 調査検討委員会における北陸圏の強みに関する意見の抜粋

		北陸圏における真に暮らしやすい接続型都市圏形成の推進調査 調査検討委員会	
第 1 回	情報通信	・南砺市(富山県)や穴水町(石川県)では、中山間地と中心市街地の病院をネットワークで接続する遠隔医療のモデル事業を実施している ・南砺市(富山県)では定住促進を目的としてテレワークのモデル事業を実施した	
	地域構造	・都市-都市、都市-中山間地が接続した地域構造 ・都市機能や防災機能など、都市圏の内側・外側双方から見た場合の接続といった観点から発掘し、接続都市として、人々を呼び込むことができる ・都市部と農山漁村、限界集落までが 30 分圏の中にあり、ドラスティックな変化を楽しめる	
	子育て	・子どもの送り迎えをタクシー事業者が行う「子育てタクシー」の取組が進んでいる	
	食	・安全な食を提供できる地域としての北陸圏の認知度は高い	
第 2 回	地域構造	・北陸新幹線開通による時間距離の短縮により、圏域全体で機能分担することが可能になり、300 万人規模の大都市が有するような都市機能の確保も考えられる ・多様な機能を圏域が一体となって共有することのできる接続型都市圏を目指すことが望ましい	
	住み良さ	・北陸圏は豊かな田舎暮らしが魅力であり、産学連携や企業と観光の連携も実績がある	

2.4. 関連計画・既往調査等からみた暮らしに係る「北陸圏の強み」のとりまとめ

2.1.～2.3を踏まえ、北陸圏の暮らしに係る強みを「都市と農山漁村との近接性」及び「都市間の近接性」の2点に取りまとめた。

多彩で豊かな自然、文化、都市サービスを提供する、ゆとりと利便性を提供することが可能な都市と農山漁村の近接性

北陸圏は、人口5万人前後の地域の中核となる都市を中心に30分圏でほぼ全域をカバーするように、都市と中山間地域を始めとした農山漁村とが近接するコンパクトな生活圏を形成している。

このことに加え、住環境条件等も全国的に優れており、北陸圏のどこに住んでいても都市サービスの利便性と農山漁村のゆとりとを身近に享受することのできる、豊かな生活環境を形成している。

さらに、人口減少・高齢化の進展する農山漁村等に対して、強固な地域コミュニティを活かした都市部との連携による安全・安心な暮らしを提供する北陸ならではの生活モデルの構築も期待できる。

また、自然とのふれあい等へのニーズが高まる中で、都市と農山漁村の共生するゆとりといやしにあふれる生活環境は、定住や二地域居住促進に向けて人々をひきつけるものになる。

北陸新幹線の開通により、より一層移動時間が短縮することで、若者等も魅力を感じる高次都市機能の充実が可能な都市間の近接性

5万人規模の都市が接続する北陸圏は、個々の都市の背後圏の人口が、30万人規模以下となっている。しかし、北陸自動車道や北陸新幹線などの高速交通ネットワークの進展により、都市間の時間距離が短縮されることで、全体マーケットとしては、100万人規模以上を見込むことができ、大都市圏に匹敵する都市サービスの立地も可能になる。

それら接続する都市は、歴史・文化的な背景、基幹産業等も異なり、多様な個性を持つ接続する都市圏を形成している。このため、高次の都市サービスの立地を個々の都市の個性に合わせて配置することで、より魅力ある都市圏を構築することが可能になるものと期待される。

北陸圏出身者の20～30代のUIターン希望が高い中で、接続する都市がもたらす多様で高次の都市の魅力と、伝統産業から先端産業までの恵まれた就業環境、子育て施策等の先駆的な定住促進に向けた取組等は若年層にとって魅力あるものであり、今後子育て世代等若年層の定住を促進するものと期待される。